

## プロジェクトリーダー:名古屋学院大学 スポーツ健康学部 中野貴博准教授

### 事業実績調書

(1) プロジェクト名	こどもの体力・運動能力, 活動意欲向上を目指した調査・実践
(2) プロジェクトの成果 (※どのような成果が得られたかについて具体的に記載)	<p>2016年度は、第一に運動が得意でない児童を対象とした、多様な運動実践の充実を図った。2015年度は多くの希望者に参加をお断りしなければいけない事態が発生していた。そのため、2016年度は、そのような対象者に新たな機会を設定した。また、新規の対象者にも同様に機会を設定した。普段決して運動を得意としない児童達が、非常に意欲的に運動をしていた点は成果と言える。実際に、実践中の移動距離は1日目から2日目にかけて有意に増加していた。さらに、保護者へのアンケートでも、多くの保護者が子ども達が楽しんでいる様子や、いつも以上に意欲的に取り組んでいる様子が見られたと回答していた。加えて、2016年度は、他経費も活用して、取り組み内容をより広く普及するための小冊子の作成を行い、広く配布を開始している段階である。</p> <p>もう一点の取り組みである、小学校現場および市教育行政と共同した、体育授業の充実に資する活動は、11月より本格的に開始した。2か月ほどの活動の後の教員との意見交換では、「普段以上に充実した取組ができた」「子ども達に多くの運動機会、指導機会が提供できた」「導入運動などで、運動遊具の充実を図ることができた」「補助の学生などが入ることによる、子ども達の高揚感が見て取れた」などの肯定的な意見が多く得られた。</p>
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	<p>本プロジェクトでは、大きく分けて2つの実践的活動を行った。1つ目は、2015年度から継続的に実施してきている活動である。運動があまり得意でない小学校低学年児童を対象に、本学の運動施設で集中的な運動実践活動を行った。基本コンセプトは、運動があまり得意でない児童に対して、多様な運動体験の機会を提供することで、運動の本来の楽しさを感じてもらおうことであった。2015年度より好評な取り組みであり、2016年度においては2度開催した。1度目は、2015年度の応募者多数でお断りした対象者に再度の機会を提供し実施した。2度目は、瀬戸市内の新たな小学校1, 2年生を対象に実施した。トータルで52名を対象に各2日間、集中的に実施した。実施中および実施後の反応はよく、保護者へのアンケートでも、ほぼすべてで、普段以上に運動を楽しんでいたという結果が得られた。</p> <p>2つ目の取り組みは、小学校現場での体育授業の協働であった。市内の小学校2年生2クラスを対象に、計6回、延べ32人の補助学生とともに実施した。対象単元は、縄跳び、すもう遊び、サッカーであった。対象校の選定にあたっては、申請者らが2015年度以前に幼児を対象に実施してきた運動促進事業の対象園児が多く進学する学校とした。今後の継続的取り組みにより、長期の取り組み効果を検討できると考えている。こちらの取り組みに関しては、次年度以降、より長期かつ計画的に実践していく予定である。</p>
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	<p>本学運動施設での、多様な運動実践に関しては、イベント的ではなく、より長期の継続的取組を望む声を保護者から多くいただいたことを受けて、次年度以降は、8回～10回程度の継続的な取り組みへと拡大していく予定である。小学校現場での活動に関しては、前述の通り、長期の活動実施とともに、活動範囲を広げるため、現協力校との取組をモデルケースとし、広く他校に発信していく方策を立て、実施する。具体的には、まず、リーフレットの作成と取り組み内容のモデル動画の作成などである。</p> <p>さらに、瀬戸市の教育行政および教育現場との連携強化をはかり、市としてのプロジェクト設立につなげていきたいと考えている。これにより、市内の小学校(児童)に広く、多様な運動経験の重要性発信できるものと考えている。</p>